

< 目次 >

- 1 【 共通課題 】 北海道と徳島県の事例から
 - 2 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 3 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

★ 教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

★ 「Hand In Hand」二部合唱の楽譜をダウンロードすることができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24handinhandgassyou.pdf>

1 【 共通課題 】 北海道と徳島県の事例から

今回は、北海道・東北ブロック生涯学習・社会教育主管課長会議において話題となった「秋田県の取組」について紹介をしました。今回は、北海道・徳島県の取組を紹介します。

【事例1；北海道】社会教育からアプローチする“学力向上の取組”

○北海道では、「今まで“学力”は、学校教育の場において語られることがほとんどでした。しかし学力の向上は、家庭での家庭学習や読書、早寝早起きなど、子どもたちの生活習慣がきちんと定着し、家庭や地域全体で子どもたちを育てるという教育と相まって初めて実現すると考え、“授業改善と望ましい生活習慣の定着を車の両輪”と位置付けて取り組んでいます。」

○また、「わかりやすい授業づくりと家庭での学習習慣や望ましい生活・読書習慣づくり、を学校教育と社会教育の両方向から取り組んでいる。」とのことです。

この北海道の「学力向上総合事業」は、学校教育からの“いわて型コミュニティスクール”による「まなびフェスト」の取組と社会教育からの“教育振興運動”による「全県共通課題」の取組を車の両輪とする岩手県と同じものです。

北海道では「全国学力・学習状況調査」の学力における結果が全国平均を下回る状況が続いていることを全道の課題とし、平成26年度調査までに全国平均以上にすることです。平成19年度の同調査の結果、テレビの視聴時間が長く、家庭学習や家庭での読書時間が短い状況を全県の課題とし、その改善のために全県共通課題に取り組み始めた岩手県と始まり方も同じです。

【事例2；徳島県】県民総ぐるみの読書活動で子どもの“読書活動推進”

○徳島県では、「すべての子どもが豊かな心をはぐくみ、生涯にわたり自ら学ぶことができる力を養うために、県民総ぐるみで読書活動に取り組むことができる環境の整備に取り組んでいます。」

○そこで、「平成22年3月に、県内0～18歳までの子どもたちに読んで欲しい本をまとめた『とくしまの子どものためのブックリスト100プラス』を作成し、県内の幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校の全幼児・児童生徒に配付しています。」

○また、「新小学校1年生に「10分間読書シート」を配付し、音読を家族の人に聞いてもらうなど、学校入学時から読書の楽しさを体験する取組をおこなっています。また、毎月23日を『家庭読書の日』とし、その日を含む週を“家庭読書推進週間”として、家庭読書につながる各学校等の取組を推進しています。」

岩手県の場合は、教育振興運動により「読書活動の推進」を全県で取り組むことを提唱しています。また、読書時間及び1か月の読書冊数に係る調査結果から、中高生の読書活動の推進に重点を置いて『いわての中高生のためのおすすめ図書100選』を作成、県内すべての中高生に配付しています。

“学校教育との連携を図って全県で取り組みましょう”と提唱し、平成21年度より取り組んできています「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」の取組は、北海道や徳島県など全国各地で取り組まれています。これからも、子ども自身にも考えさせながら、行政の支援のもと、親・学校・地域の連携により、改善に向けて取り組んでいきましょう！

2【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) ちょ～、むかつくんだけど・・・。

(振ちゃん) 教ちゃん、どうしたの？

(教ちゃん) なんで、そうまったりしてられるの？わたしと真逆じゃない。

(振ちゃん) すごい怒っていて、半端ないよ。

(教ちゃん) なにげに、挟んできたわね。

(振ちゃん) えっ、何のこと？

(教ちゃん) わたしみたく、がつつり使っていいわよ。

(振ちゃん) そういえば、もうすぐ学習発表会じゃないですか、その時、1コ上の学年が「Hand In Hand」の合唱を歌うんだってよ。

(教ちゃん) 振ちゃん。全然OKよ。

(振ちゃん) 怒っていたかと思うと、急ににやけて・・・。教ちゃん、変だよ。

(教ちゃん) 今の「にやける」の意味は、間違っていない？

(振ちゃん) もう・・・疲れちゃったよ。教ちゃん、やめようよ。

(教ちゃん) そうね。皆さん、会話の意味はわかったでしょうか。9月20日に発表された文化庁「国語に関する世論調査」で調査された“最近多く耳にする言葉”を使って会話をしてみました。

★文化庁「国語に関する世論調査」⇒

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/h23/pdf/h23_chosa_kekka.pdf

(振ちゃん) この調査によると、日本人の国語能力が低下していると回答している人が多いのだからね

(教ちゃん) そうなのよ。「書く力」が低下していると回答；87%、「読む力」が低下していると回答；78%、「話す力」が低下していると回答；70%、「聞く力」が低下していると回答；62%と、すべてにおいて高い数字だったのよ。

(振ちゃん) 漢字を書く力が衰えたと感じている人が66.5%（10年前調査より25.2ポイント増）、手で字を書くのが面倒と感じる人が42.1%（同10.1ポイント増）というのは、深刻だよ。

(教ちゃん) 直接人と会って話すことが面倒と感じる人18.6%（同7.3ポイント増）、口で言えば済むことでもメールを使うようになった29.5%（同12.3ポイント増）も、気になるわね。

(振ちゃん) みなさんの地域・学校の子どもたちは、いかがでしょうか。実態を踏まえて気になるようであれば、これも地域の教育課題です。

(教ちゃん) そうね。解決に向けて5者が一緒に、ハンド・イン・ハンド♪

(振ちゃん) 失笑・・・。（失笑の意味は・・・）

3【編集後記】あつしのひとりごと

10月27日（土）～11月9日（金）は、第66回読書週間です。普段、「読書をしようね」と言いにくくても、「“読書週間だから”、読書をしようね」なら、子どもに対しても言いやすいのではないのでしょうか。

「この期間中は、ノーテレビタイムをつくろうね。何時から何時にする？」「ノーテレビデーを○日つくろうね、いつにする？」「今度の日曜日に、本を買いに行こう（借りに行こう）ね」・・・そんな会話があってもいいですよ。

岩手県読書推進運動協議会では、“読書推進標語”や“手作り絵本・紙芝居”の作品を募集しています。親子や学校で取り組むのもよいでしょう。

作品募集は ⇒

http://www.library.pref.iwate.jp/oshirase/syukan_bosyu/dai66kai/66_bosyu.html

読書週間の前から、話し合ったり、読む本を一緒に買いに行ったり（借りに行ったり）、作品を作ったり・・・。読書週間は、興味を持たせるきっかけづくり。イベントとして盛り上げて、親子や学校で楽しんじゃいましょう！

“読まなければならない”だと、楽しくありません。義務感では、子どもも親も辛くなります。「うれしいな！楽しいな！」と親がノリノリで楽しそうだと、子どもも巻き込まれていきます。

○読まなければならない【ねばならない；義務】

読んで当然（子どもは褒められず）、読まないと「何やっているの（子どもに小言を言う；マイナス）」⇒親子の心は“マイナス”のスパイラルに。

○読んだらうれしいな【なったらうれしい；希望】

読んだらうれしい（子どもは褒められる；プラス）、読まなくても「いつも通り（まあ、次があるさ）」⇒親子の心は“プラス”のスパイラルに。

心を豊かにする読書のための週間です。期間中、笑顔でいたいですね。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第79号は、10月23日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～77号）はこちら。

⇒ http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

～～～